



会報・第6号

北陽高等学校

同窓新聞

1985. 6. 1. 発行

編集発行

会報委員会

委員長

藤井 文太郎

三代市川校長



初代糸島校長



二代横山校長



四代八沢校長



六代庄田校長



八代林現校長



五代三雲校長



七代木村校長

母校創立
六十周年を迎う

母校の60年、この間に現校長を入れて、8人の校長が入れ替り中興の三雲校長以後年々発展の一途を辿る。

亦第1回卒業生以来新制高校第36回の今年卒業生までその数は約2万名の多きを教えるに至った。文字通り歴史と栄光に輝く母校の歩みといえる。今就職に進学にハイレベルを目指して精進しており、卒業生の多くは社会的にも高い地位を獲得しつつ国家に、地域社会に活躍貢献している。



懐しの創立当時の校舎



近代感覚に満ちた現校舎

60周年記念事業 計画案近く出来!!

育英資金制度の創設と 新体育館の建設

北陽は今年創立60周年を迎えます。この還暦の年に際し、私にはさまざまの想いが去来してまいりますが、何よりも創始者糸島校長をはじめ諸先輩のご努力に対して先ず心からお礼を申しあげねばなりません。

60年の歴史には、幾多の変遷がありました。校舎だけを考えてみても、あの懐しい木造の建物から円型校舎、更に現在の五階建に三度も変わりました。校地も同じ新庄ながら下から上へと移りました。戦争を中にはさんで、経営母体も学制もすっかり変わりました。しかしながら、建学の精神だけは60年間一貫して不变であります。知・徳・体の調和をめざす全人教育こそ教育本来のあり方であり、今から思えば創始者がいかに高邁な精神の持主であったかの証左ともいえましょう。

この理念を引き継いで行く私にとって、高校の三年という期間は何とも短かすぎる。少くとも旧制のように五年はほしいところです。8年前私が校長就任の条件として中高一貫教育を提示したのも、この北陽精神をしっかりと培うためであります。現在世間の要請もそのような傾向にあるようで、もはや中高一貫教育も夢ではなくなつたと思います。

ところで、夢が現実になるためには、母体である高校が、名実ともに魅力ある学校でなければなりません。言うまでもなく、教育は教員と生徒との人格的交流を基本としますが、その効

果を挙げるには、教員側の資質、熱意と努力が第一で、次に授業内容の精選、能力を引き出す指導力が必須条件だと思います。それと同時に、生徒の中に牽引車的役割をするものがいれば、相乗作用がはたらいて全体の向上に資するに違いありません。この意味から、知・徳・体に特に優れた生徒を対象とした育英制度を確立したい。そのためには基金が必要です。さて、これをどうしようと悩んでおりました。ところが、昨年5月校内で3年の生徒が急性心不全で倒れ、そのまま不壇の人となってしまいました。その生徒は校内外でも評判がよく、篤学の好青年で皆の悲歎も深かったのですが、就中両親はその深い悲しみの底から、せめて後輩の好学の方へ息子の気持が伝わりますようにと言って、育英資金の一助にと多額の寄付をいただきました。私は感激するとともに、是非これを基金にして募金をつくり、将来にわたってこの事業がすすめられるようにしようと考えました。そこでこれを60周年記念事業の眼にしたいのです。

次に、糸島校長が北陽精神の祖であるならば、戦後の北陽を再興した三雲校長はスポーツによる教育の肉づけをされました。現在の校地と体育館、プールはその所産であります。だが、その体育館も今では狭少となり、プールは老朽化しました。そこで、プールを中心に取り入れた立体的な第2体育館をつくりたい。この念願は、しかし、5億円近い資金を必要としますので、すぐにかなえられないでしょう。でも、せめて今年の記念に、実現への第一歩を踏み出すことができたらと考えています。

何とぞ同窓生諸氏のご協力を切にお願いする次第です。(筆者は母校林敏夫校長)

60周年を祝おう！ 記念祝賀式典決まる

来る11月22日(金) 午前11時 太閤園において

母校の記念事業に 協力しよう

母校北陽高校は近く創立60周年を迎えます。人間であれば還暦を迎えると、過去を振りかえって、老後の生活設計をはかることになるでしょう。しかし学校の場合は、60年という節目を迎えるのですから創立以来の過程、迂余曲折の歴史を反省する反面、これからあと70年、80年、100年までの先の長期展望に立っての学校の充実、発展を考える必要があると思います。

私たちが学んだころの北陽は、創立後まだ数年しか経ていないわば創始期の小じんまりした商業学校でした。1学年が僅か40名の2クラス、校舎も木造のお粗末なものでした。しかし糸島校長の指導理念、訓育方針は知・徳・体の調和をめざす個性のある学校であったと考えます。

その後北陽は、戦時中の昭和9年に学校教育に関する非常措置で工業高校になり、21年4月には、終戦に伴い元の商業学校に、翌4月1日、新学制で中学校を併設、23年4月1日には学制改革によって北陽商業高校と改称、24年3月1日、北陽高校と再度改称し中学校は廃校となつたのです。

このように時代の移り変わりと共に校名は何度も変わりました。経営母体も現在の学校法人福武学園に変わっていますし、学校の施設も何度もかの変遷を経て現在の立派な建物に至りました。私たちの学んだころの北陽に比べますと、生徒の数、施設の充実は全く今昔の感一しおを



初代阿倍会長



稲野現会長

覚えます。そこで60年、還暦という節目で、私たち同窓会は今後の北陽をどうあってほしいか、どうあるべきかという問題は、誰しも重大関心をお持ちのことと存じます。学校当局とその記念事業について懇談しましたところ、学校では育英資金制度の創設を考えておられることがわかりました。これは北陽の建学の精神、知・徳・体に優れた生徒を対象とした育英制度であって、その基金の設定を記念事業の柱としたいということです。またプールを含む第2体育館構想もあるようにうかがいました。

私たち理事会はこの問題を議題に検討いたしましたところ、全員一致で全面的に協力することに決まりました。

育英制度の活用により、学業成績が良く、品位もあるスポーツに優れた生徒を毎年1人でも多く迎え入れるということは、創立以来60年受け継がれて来た建学精神を再確認することでもあります。60年という節目を記念して長期展望を考慮しての記念事業として意義ある事業と考え同窓各位のご賛同とご協力を心からお願いする次第であります。(筆者は稲野同窓会長)

第8回代議員会開かる



4月13日大阪ガーデンパレスホテル会議室での代議員会審議風景

4月13日午後4時より新大阪ガーデンパレスホテル4階会議室において第8回定例代議員会が開かれた。先づ角野吉昭氏（昭23年卒）の開会の挨拶があった後、稻野治兵衛同窓会長から大要次のような挨拶が行われた。

「代議員総数253名の内、委任状を除いて本日は106名の出席を頂き盛会裡に開会できました。現在同窓会の大きな事業として会報の発行と名簿の整備の2つがあり、会報は近く第6号を発行することになっています。名簿の整備も仲々の難事業ですが、根気よく取り組んでおりまして、そんなに遠くない内により充実した名簿が同窓各位のお手許に届けられると思います。母校は今年で60周年という記念すべき年を迎えた。大正14年に商業学校として産声をあげて以来、戦時戦後の変転期から新教育時代へと、今日までいろいろの経緯を経て来ており、今年還暦を迎ますが明日からの未来に向けて新しく出発しようという準備を始めています。初代糸島校長の建学の理想「知・徳・体」の一体の教育の充実こそ最も60周年を契機に基幹となるものとして、母校は育英制度と新体育館の建設という二大計画を策定中であります。同窓会はこの計画に全面的に協力しようしております。代議員の皆様は申すに及ばず広く同窓各位の絶大なご支援を頂きたいのであります」つづいて母校林敏夫校長から「61年目から新しい発足、初代校長の建学の精神を更に充実してゆく決意であります。これを実現するため今年は記念事業として3つの計画を押し進めており

ます。その1つは60年史の発行であります。教職員が一致団結教育活動の充実を目指す、そのたまき台となる60年史であります。その2は教師と学校のいき方をよく理解し一般の生徒を引張ってゆく生徒を育成したいという願いであります。これは育英資金制度の実現によって可能となると思います。その3は中学校を復活併設して6ヶ月の一貫した教育体制を確立したいのであります。そのためには現在の体育馆とは別に多目的の新しい大体育馆を建設したいのであります。この資金については学校の所有している山林の一部を売却して賄いたいと考えております。何卒同窓各位のご理解とご支援をお願い申し上げます」この後議長に山崎勝己氏（昭18年卒）議長に加茂勉氏（昭20年卒）を選出して議事に入る。

第1号議案59年度事業報告、第2号議案59年度会計報告及び監査報告について、森田事務局長（昭20年卒）より下記決算書について説明を行い、皆川会計監査より監査報告があつて三木憲三氏（昭23年卒）の質疑応答のあと、全員異議なく賛成可決、第3号議案60年度事業計画案、及び第4号議案60年度予算案について、森田事務局長より提案理由の説明があつた後質疑に入り大久保寅人氏（昭36年卒）より育英制度について質問が行われた外足立宗央氏（昭42年卒）より同窓会の記念事業への協賛活動について質問あり、それぞれ応答があつて異議なく可決された。続いて第5号議案会長選任の件を上程、全員賛成して留任を決定。稻野氏より会長留任

承諾の挨拶あり、理事若干名の増員について代議員会の了承を求めた。江原光津雄氏（昭18年卒）最後に立って発言を求め、「母校の育英制度の実現について賛意を表するのが特に知育について力を入れてほしい」と述べて万場の拍手を浴びた。

藤井副会長より閉会の挨拶があつて午後5時20分定例代議員会の幕を閉じた。（本会議の詳細について知りたい方は母校同窓会室にご来室の上、ご自由に速記録を御覧下さい）

尚理事会及び代議員会に提出された母校よりの報告書の大要は次の通りである。
××北陽高校は大正14年に商業学校として創立され、戦中戦後のしばらくは、工業学校、商業高校と推移しましたが昭和24年北陽高等学校と改称して今日に至るまで建学の精神である知・徳・体の調和をめざした全人教育を推進し有為の人材の育成に努めてまいりました。今や科学技術の高度化、国際化の時代に即応する教育が強く求められ、私学の独自性、創造性が問われております。本校も60周年を契機として、将来への飛躍に向けて努力をつづけ、社会の期待と要請に応えねばならないと考えております。そのためには60周年記念誌を発行して歴史と校風を明確にすると共に育英資金制度を確立して知・徳・体の具現をはかり、屋内プールの建設も推進したいのであります。格別のご賛助を賜りたくお願い申し上げる次第であります××

昭和59年度 北陽同窓会会計決算書

収入の部

科 目	予 算	収 入	備考(60年度予算案)
会 費	1,440,000	1,428,000	1,761,000
受 取 利 息	400,000	564,214	450,000
前年より繰越	9,442,917	9,442,917	9,406,370
合 計	11,282,917	11,435,131	11,617,370

支出の部

科 目	予 算	支 出	備考(60年度予算案)
理事代議員会議費	600,000	591,056	900,000
学校への協力金	200,000	200,000	200,000
人 件 費	800,000	628,400	800,000
旅 費 交 通 費	50,000	0	50,000
消 耗 品 費	30,000	38,795	50,000
通 信 費	100,000	101,800	100,000
印 刷 費	50,000	73,160	100,000
贈 品 費	30,000	0	30,000
支 部 育 成 費	100,000	44,000	100,000
慶弔 費	50,000	51,550	50,000
予 備 費	100,000	300,000	200,000
次 期 繰 越	9,172,917	9,406,370	9,037,370
合 計	11,282,917	11,435,131	11,617,370

創立60周年記念事業資金の ご賛助について

母校は大正14年に北陽商業学校として創立されて以来本年で創立60周年を迎える同慶のいたりです。

今や科学技術の高度化、国際化の時代に即応する教育が強く求められ、私学の独自性、創造性が問われています。

そのために教育諸条件の整備もまた不可欠で下記の計画事業のうち、特に同窓会として各位の絶大な御賛同を得たいのは育英資金の協力ということになります。何卒今後何かとお願ひ申し上げることになりますがよろしく御支援下さい。

創立60周年記念事業概要

- 育英資金制度の創設基金目標 2億円
- 新体育館（プール内蔵）の建設計画の実施

（構造規模）

鉄筋コンクリート造2階建（延約3,200m²）

グランド敷地内

1階プール 2階体育館講堂

（建設費）約5億円

募金について

○同窓会目標額 3,000万円

○1口 5千円

何口でもお願いします

（寄付金の免税措置がございます）

○振込の方法

同封の振込用紙をご利用下さい。

○募金の期限

第1次〆切 昭和60年末。

40年前の北陽

昭20年卒 上田 昭三

母校が創設されて丁度60周年となり、しかも益々発展しつつある。卒業生の1人としてこんなにうれしいことはない。今後の一層の隆盛を祈りつつ、以下でははるか遠くなつた私の在学中の思い出の一端を記させていただきたい。

現在もそうであろうが、私が入学した昭和15年は本当にすばらしい先生方が揃っておられた。その双璧のお1人は言わざと知れた英語の八沢俱好先生で、上原謙のように整ったしかも大変威厳のあるお顔を見て思わず緊張したものだ。授業はまことに丁寧、しかし非常に厳しく、愈けた折はよく「そんなことでは進級はとても無理だぜ！」と言われて震え上った覚えのある者は私以外にも多かろう。

もう1人はご存知国語の松田操先生で、女性と見まちがえるお名前なのになかなかしらつ。しかしその授業は超一流で、自然主義の作家の作品の説明などは聞く者を酔わせた。1年生の秋頃であったか、国木田独歩の「武蔵野」についての授業で、人の心を動かす文学の生きいきとした力を初めて実感させられたことは今もありがたく思っている。

当時の校舎は正面の上部

Y先生とS君のこと

昭16年卒 村田 勇

多分3年生の時だったと思う。北陽へ新任で来られたY先生が担当する国語の授業中、S君が机の下から、そっと雑誌を出して読んでいたのを見つからってしまった。一通りの説教のあと、最後に、「お前のような怠け者は、学校をやめろ。すぐに家へ帰れ!!」と叱られたSは、ぼさっと席を立つと、一言、「月謝払ってます」と口答えをした。とたんにY先生の顔色がさつと変わった。先生はSの言葉を、お前達教師の給料は、生徒の月謝でまかなわれているんだ。お前達に養ってもらひながら、大きな口をたたくな。という意味にとられたらしい。ものすごい剣幕でどなりつける、先生のあまりのすごさに、みんな頭を下げて、じっとしているだけであった。

当時、Y先生は、大学を出てすぐに北陽へ就職されたが、自分が私学の教師であることに、コンプレックスを持っておられた様である。一激怒する先生の言葉の中に、そういう気持ちがあらわれていた。——そうだとすれば、その気持ちを鼻たれ小僧につつかれた、先生のふんまんやる方なさも、よくわかる。

しかし私は、Sの言った事を、先生の様にはとらなかった。S自身、そんな勇気の要る？様

に尖塔を持つ、旧制高校風の木造2階建のなかなかしようしな建物でまわりに縁が多く、またそれらを囲む赤れんがの柱に木製白ペンキ塗りの棟のついた立派な垣は、フランス風の洒落たものだった。こういう調和のとれた品のあるたたずまいは、わが国の視聴覚教育の天光覚者たる校祖糸島實太郎先生の現実的理想的主義と無縁ではなかろう。

主校舎の北側の道を狭んでテニスコートがあり、その奥にあった剣道場で3年生の夏休みのある日合宿訓練が実施された。初日に毛布などを背負って道場に入ってみると、床のあちこちに食器の西洋皿が置いてある。当時戦争はかなり進んでいてとても貴重となっていたランチのような洋食が今夜は出るのかと一瞬よろこび、びっくりしたことを40数年たった今でも不思議とよく覚えている。しかし近づいてどの皿にも白い灰のようなものがついているのを見て、感のぶい私もようやくそれが夜に蚊とりをおくための皿であることを知り、がっかりしたことばはない。

在学5年間の約半分が戦争の末期に当るという厳しい時期であったが、良き師良き友良き環境に恵まれたすばらしい北陽で、多感な少年時代に学べたことは心から幸せに思っている。

(筆者は関西大学経済学部教授・経済学博士)

なことを言える男ではない。その頃の北陽商業の授業料は、年額70円であったが、母と2人で、小さな煙草屋の収入に頼りながら暮らしているSにとって、70円は恐らく大金であつただろう。その大金が先払いしてある。そんな殺生なことを言わないでください。といった気持ちで、つい口に出してしまったのだろうと思う。

その後、2年程でY先生は他校へ転勤され、消息が不明だし、S君も太平洋戦争で帰らざる人となってしまった。今は2人のその時の心情をさぐるすべもない。

自分が今、教師として現職にある故か、数多い北陽時代の思い出の中で、この2人の事が特に強く記憶に残って、離れないのである。

(筆者は大阪市立東小浜小学校長)

60周年に想う 私の思い出

旧高槻藩御用菓子司

田辺屋

社長 伊藤 学 (S18年卒)

高槻市上田辺町
電話 (06) 85-0256

同窓会員名簿との出会い

昭和4年(第1回卒) 松村 豊

私は昭和4年卒業以来学校の事も学友の事も忘れるともなく忘れて、長い年月を過ごして来た者です。

それが後で述べる様な事情で、フトしたキッカケから少年の頃の思い出が多い母校や毎日を楽しく過ごした学友を恥しい事ですが、この年になってしまいじみ懐しく思い出した懐な事でした。

今春目出度く学校を卒業された皆さんは、大学や実社会にと各々違った道を歩かれる訳で自ずと学校からも学友からも何とはなしに遠ざかる様になりがちですが、私達の様な淋しい事にならない為にも、出来ます事なら都合のつく学友達でもご自分達の同窓会を早い時期に発足され、将来の為大事に育てて行かれる様心からお勧め致します。

さて、今回本誌に私如きが母校創立60周年の記念すべき年に投稿する様にとのご連絡を頂き本当に戸惑いましたが、ご期待に添えるかどうか判りませんが、標題の会員名簿との出会いという事で書いて見る事に致しました。さて58年6月頃でしたか第3回卒の杉本誠三君より立派な名簿が16年振りに発行されたが、松村さんは不明者になっていると知らせてくれたのです、この時に長らく忘れていた学校や学友の事が思い出され早速に名簿を見せて貰ったのです。この時に名簿との出会いが始まったのでありました。忘れていた懐しい学友の名前が同時に丸坊頭だった面影が浮んで来ました。年の故でしょうか無精に逢いたいなァーと思ったのです、早速理事の西田君に連絡し学校で逢う事が出来ました。55年振りの御対面、誠に感無量でした。相談の結果とにかく一度同窓会をやろうという事に決まりました。さアーそれからが大変だったのです。林校長より原籍簿のコピーを頂き不明者の中から学友を捜す作業を始めました。

北陽26会のこと

昭8年卒 岡 柳二

昭和16年、「噫!!弓削純一先生」という拙文を北陽に掲載する機会を得た。あれから40回年を経た今日、奇しくも学校から同窓会について何か書けとの要請を受けた。感慨これに過ぎるものはない。

昭和8年度卒業第2本科第6回生の卒業記念アルバム顔写真によると、卒業生86名、同級諸君の中、日支事変に次ぐ第二次大戦に散った者も少なからず。戦前戦後を通じて、何度か同窓

然し55年前のものであり、戦時中の混乱でかなりの変動もあり、仲々簡単には判りませんでした。それでも9名の方の確認が出来たのは大きな喜びでした。

然し今回の調査で亡くなった学友もかなり判明しました、この時は胸がつまる様なショックでした、中には卒業して間もなく亡くなった氣の毒な学友もありました。

私共の同窓生は100名足らずの数でしたが、其の半数の学友は今でも所在が判らないのです。元気でおるのか或は亡くなったのかも判りません、どうか元気でいて欲しいものと念じております。以上調査の結果20名の確認が出来ました。この内の15名で昨年6月に林校長、八沢元校長のお2人にお出席頂き有馬で、第1回同窓会を開催致しました。

参加者は残念乍ら15名でしたが、皆云い知れぬ感動で一杯だったと思います。童顔だった少年が年老いて55年振りの再会、涙が出る思いの感銘でした。

1冊の同窓会員名簿との出会いが忘れていた懐い母校を思い出させ、又、何ものにも替へ難い20名の学友の確認が出来、15名の学友との出会いが実現出来た事を心より喜ばずにはおられませんでした。

反面亡くなった30名近くの学友の冥福を心よりお祈り致します。尚、此の名簿との出会いがなければ終生20名の友の消息を知る事も出来なかつたのではと思うと寄しくも、この機会を与えてくれた杉本誠三君に対し誌上を借りて心よりお札を申し上げます。卒業以来55年も経ちますのに今年4月にやっと第3回同窓会を開く事になりました。是からは回を重ねて参りたいものと思っております。

最後に、60年の歴史と伝統を誇る母校北陽が教育の殿堂として益々発展される様、又、会員の皆さんも益々元気で過される様、念じて止みません。有難うございました。

会を開催した記憶はあるが、漸く昭和48年再開同窓会として集った者21名、(判明在籍者33名)以来10月第2土曜日に毎年継続して、昨年は12回目を迎えた13名が参集。その間逝去会員15名、その後の消息判明者8名、昭和60年2月現在の会員26名となっている。

以上は北陽26会の推移である。それにしても58年度版北陽同窓会名簿発刊によって、6名の消息を摘むことが出来た。感謝の外はない。

さて12年間の会合は、10回以上の出席者9名と、同じ顔触れになる嫌いはあるが、初出席者を中心に、思わぬところへ話が飛び爆笑、何度会っても俺お前でことがすむ。

登下校時のエピソードから、隣接の運動場の端を流れる川で、虫狩り、蛙釣り、又喫煙のかどで、停学になった思い出。出席日数不足で、留年になるところを、嘆願の署名を集め、糸島校長先生に泣き付き、温情に縋って卒業出来た者の追憶、同窓会が続く限り、同じように無鉄砲な、若かりし頃の話は尽きないであろう。一番若い者で満70才、自営業の人を除いて50有年（その間3～7年間の戦争に従事）の仕事

野球と私

昭60年卒 藤井 政樹

北陽高校に入学して、卒業するまでの3年間で、「自分」というものが変わっていくのがわかれました。

その「自分」というものを変えた一番の原因は、野球部に入った事だと思います。それまでの私は、ただ野球が好きと言うだけの甘い気持ちで続けていたようなものだったので、この北

から離れ、余生を送っている。但し歳には勝てず、闘病中の諸君も幾人かいる。折角加賀、早く戦列に復帰してもらいたい。

先生、同窓会は最後の2人になる迄毎年続けようと豪語していた桶谷義廣君が、先に鬼籍の人となつた。その意を体して続けて行くつもりでいる。

別添えの写真は昭和58年に、卒業後50年を迎えた年のものである。

建て前の話はいらぬ友と居る

陽の野球は、想像以上の厳しさでした。でも、練習を休みたいと思っても、野球をやめたいと思ったことはありませんでした。そこが又、自分の甘かった部分だと思います。それが、最後まで続いたのは、辛い練習の中で一つの事をやり遂げないと、何事も成就しないと言うことを学んだからだと思います。

そして、その事が学習面にも役立ち、希望の大学に入ることができました。

これからも、この北陽で身についた「不屈の精神」で難関を乗り越えています。

友遠方より来る 又楽しからずや

昭23年卒(定時制) 加茂 勉

「世間で広いようで狭いもの」私の知人の息子さんがある依頼で私の事務所へ来られた。その話の中で、同君が日頃お世話になっているのが北陽同窓生のA君であり、A君がよく私の話をしていたとの事、懐しさのあまり、手紙を出す、すると又返信が来る。そこで同窓会の開催を希望すると、彼は、同窓の1人和田日奉君が韓国で教師をしていて、是非日本へ行き同窓生の諸君に会いたいとの事、韓国の渡航許可がおり次第同窓会の打合せをしたいとの返事、その返事を待っていると、日本から韓国へ行くのは簡単だが、韓国民が日本へ来る事は大変なことで、なかなか許可がおりないので、学校の夏休み中に行きたいので許可がおりる様にしてやってくれとの事、そこで兵庫県自民党県議団と韓國友好連盟関係、県の外務課等に接渉し、私が在日中の一切の責任を持つとの覚書を入れ、航空切符往復券と許可願書同封して彼に送り、ようやくにして目的が達せられ、同窓生有志一同が伊丹空港へ出迎えに行く。(写真参照)思えば昭和16年4月北陽商業学校方2部に入学以来4年間の同窓であり、特に大東亜戦争に突入し、食糧事情最悪の時代で、すき腹を抱えての登校、あの食堂でのダンゴ汁が懐しい。

和田日奉君は張切ボーアで、野球部の捕手として活躍、当時の第2グランド、淀川の河原等で日曜日は、浪商はじめ各校と親善試合に熱を



中央黒服が和田君、その隣が奥さん。
昭和59年8月12日伊丹空港ロビーにて。

入れ、応援に駆け参じた当時が、昨日の様に思い出される。互いに39年振りの再会、特に、戦後韓国で苦労して教師となり、日本への慕情に才月を経た友、和田君にとってはその感激は格別であったと思う。

衣料卸

株式会社 富士商店

本社 茨木市上泉町9-37

社長 川本富三 (S13年卒)

直売部(富士サービス)茨木市別院町3-30

電話 本社 (0726) 24-1621

直売部 (0726) 22-3317

職場訪問

武田薬品工業株式会社をたずねて

今日は日本製薬企業のトップ、武田薬品工業をたずねる。武田薬品工業は大阪工場中央事務所の応接室に案内される、守衛さんも実に親切で礼儀正しい。水野享氏に久し振りに逢う、何をかくそう、彼とはS18年卒の同期生である。彼とは卒業生が武田に多く入社している関係上、度々逢っていた。彼の説明によれば、「現在、当社に在籍している北陽出身者は29名で、勿論私が最年長者です、後輩の所属も本社・営業各支店・工場事務部門・現業部門・研究所関係とバラエティーに富んでおり、それぞれ職制者としてまた中堅社員として活躍しております。」「彼等の勤務ぶりについては、私の職務上(総務スタッフ管理職)各職場を巡視する機会が多い関係から、後輩の働く姿をみかけ、元気かと声をかけるのが唯一の楽しみで

す。」「彼等は、もう立派に人を扱う立場になり、それぞれの任務を忠実に履行しているのを見て常に敬意をはらっている。相談にもよくきてくれたり、席にも寄ってくれる。また今迄に3組の仲人もしたこともあった」「私が入社した頃は先輩もおらず淋しい思いをしていたが、S30年後半より後輩が次々と入社して参りましたときは本当に嬉しく感激したものでした。」「今から約20年位前になりますか、後輩が20名位になった頃、北陽同窓会を結成し、会社の施設を利用して発会式を挙行、気泡を上げたのが夢のようでした。」「それからは、先輩が同窓会が後輩が昇進した、子供ができた、不幸があった等々、そのたび喜び祝い、哀しみ、行動をともにして参りました。」「私は親爺のような存在で、後輩を子供のように思っています。」「後輩も、これからも知・徳・体の三訓を常に忘れることなく頑張ってくれると期待しております。」私は水野君の話を伺い、実にうらやましく、また頼もしく思い、今後の武田薬品・北陽同窓会の益々の発展を祈り帰途についた。(佐藤記)

会報協力費納付者氏名

(第5号会報代協力者)

山崎勝己、持田嘉雄、又木誠司、高林晴雄、竹中伊作、辻井平、浮田嘉彦、百崎和男、辻勝、吉田勇、松本巖、津田義雄、山本隆一、土砂龍夫、三木憲三、佐々木清、北浦弘、渡辺重信、柳瀬正三郎、鶴岡実、西村貞彦、坂本守、豊田徳男、山本正夫、谷戸博雄、福田要之助、橋塚秀夫、寺西克美、高橋勲、藤田忠男、川口重夫、井士明、村尾清道、奥田昭三、橋本通、鈴木利夫、畠一、大野稔、畠豊治郎、伊藤博、林国隆、神矢稀由、木村不二雄、須藤聰、浅田行雄、芳仲重一、大智英夫、川崎英彦、田村章一、佐野良晴、河本博、高木種夫、土田謙、清野徹、伊賀嘉則、西口嘉彦、中西武三、西川修、藤川孝夫、小川賢治、味舌守七、新井敏男、林彦一、泉谷定治、福島頴夫、竹本寛治、畔内貞吉、松本鉄太郎、岡田英治、前田省一、木下弥三郎、神吉武一、北三郎、子守安信、千田忠雄、西垣友夫、北窓久男、西半誠一、川口泰二、田口清一、宮口孝司、船垣文雄、多田幸次、西川昭夫、西森昭義、濱田康雄、田中徳光、川田栄正、野田長博、牧野雅男、松野明、山崎欣治郎、福田同、富室幹之助、増田直幸、土浦弘、犬飼興一、大川猛、村田茂、島田甚一、土田仁一、東尾長治郎、田中重雄、荻野清、藤井常夫、萬田武次、川端正次、岡柳二、森井俊一、大西義三郎、浜田三次、横間隆治、塩谷半一、川埜健治郎、田林重治、細見政治、高橋樹、岡本敏雄、岡田直

増野一郎、申川茂夫、岡本喜一、落合政太郎、中井哲、徳本幸治、松田昌幸、福原功、豊田猛義、一色義三、高田正明、弥田智温、小山武、栗栖治、吉田牛成、張忠義、武田清、鈴木昭昭、堀佳夫、植田正雄、土本一夫、前田光男、高島清助、吉田健、良原文藏、坂本嘉孝、永野翼、岡田浩三、浜元彌、北田秋幸、竜田洋、南垣純明、柳原恒郎、細見辰男、住永年季、井沢秀三、大江満男、喜多秀一、藤村峰夫、佐近宏、高橋国房、山川芳夫、筒井一雄、和田菊博、網盛精造、宮腰光夫、城島末明、水谷政和、林時也、大西勝、三浦啓爾、幸田彰、坂本庄造、森田悦夫、鈴家芳夫、金井亮純、内田充寛、高岡繁、佐野義晴、梅尾修一、坂下忠男、柴田敏一、新島廣治、石井孝一、鈴木善治、吉田正信、柴田章平、永田要之助、申島勉、松本正、池田一夫、戸田伸介、池田彰、平紙喜久雄、松井広可、宮野孝雄、吉野幹雄、道林充弘、北克美、山本博史、山崎勝也、加賀山晃、池田誠、河野泰明、堀尾勝好、東野久記、石原一郎、斎藤一郎、山田四一郎、坂本幸秀、乗土繁一、瀬部明、木村義夫、龟田真守、田宮久一、藤本時男、日上泰光、土井正男、渡辺祐司、東桜義隆、新宮邦去、玉井國男、神田公徳、林利信、北風敏彦、久井隆治、明石新治、山田勝彦、三、中西条太郎、西村一男、藤木栄次、高谷文一雄、西山三男、川島登起男、岡野弘、山本寛二、松本清、和矢通正、西山亮光、松尾清、弓削金次郎、水土政雄、藤川重義、齊老美雄、山本嘉三、峰順一郎、川田俊正、柳葉喜祐、内山克巳、

同窓会報

十陽会

昭和十年、第七回卒、十陽会幹事、今村稔、
篠内頼一両君の世話で、昨年12月1日、西田
辺「ことぶき」にて恒例の同窓会を催しました。
当日は昭和60年の北陽高校60周年記念行事につ
いて語り合いました。十陽会も半世紀を迎える
ことになり、なにか記念の催しについて、11名
の出席者異議なく幹事一任と決め、和気あいあ
いのうちに杯を交わし、すぎし50年の語りつく
せない数々の想出、今は昔の学び舎は明かるい
ペーパー色に赤い屋根の中央コーナーにドーム
形の塔に避雷針が光っていたそんな校舎や周辺



の面影こそないが母校は脈々とつづき栄え、サ
ッカー、野球も強くなり、その校名は全国的に
有名になりました。この会誌を読まれた十陽会
の諸氏は一人でも多く集めに出席されることを
幹事一同希望しております。

(瀬川三郎記)

四十年ぶりの同窓会

一六会誕生、第一本科13回卒業の百二名の初
めての同窓会が昨年11月10日午後六時より船場



のうお清で開催されました。一別以来43年と8
ヶ月、懐しい顔が統々と集まってきた。卒業以来
の人もいれば、時々お目にかかる津田、
松井、巽、辻(豊)、南方、の諸兄もいる。43年の
歳月を感じさせないで、それぞれのテーブルに
ついて談笑しているが、今日ここに居ない友も
いる。戦場に散った友、病魔に冒され亡くなっ
た友の顔が浮かぶ、ふと感傷的になる、若き日の
五年間同じ淡路の学舎で過ごした友が今ここに
居る。60の坂を越して元気に集まっている。大い
に呑み語り合っている。戦中、戦後のあらゆる
困難を乗りこえた男たちの自信に満ちた笑顔が
ある。

再会を約して九時すぎ会は終り二次会に参加
した人たちも次々と姿を消して 南方、野村、
浦田の四人となる。是非と誘ってくださった南
方の厚意に甘えて湯里町の彼の家に行き夜遅く

まで話がつきず過ぎし日の想い出を語り合い翌日は彼の車で夕刻新大阪まで送ってもらい楽しく懐しい想いの二日間を過ごしました。今私は東海テレビの「別れた妻」を制作を終り(放送)は三月末までフジテレビ・関西テレビ外)ほつと一息ついたところです。

一六会の発会に御尽力いたざいた新川・津田

兄に感謝します。当日出席の方々は、会長に新川正一、幹事津田真治、他に芦田喜八郎、宇野博之(宏)、浦田好、巽五平治、高橋忠道、高畠輝雄、辻豊、辻利正、内藤進、野村圭司(市次)、本田実穂、松井定雄、南方義仁、山本敏雄、渡辺正義、以上17名、文中敬称は略させていただきました。(東宝プロデューサー 宇野博之記)

第6回代議員会での緊急決議

私学の特色をいかし個性ある教育を

昨年6月17日新大阪ガーデンパレスホテルで開催された第6回定期代議員会において、下記の通りの緊急決議がなされ直ちに学園理事長福武幸吉氏校長林敏夫氏に稻野会長から手渡された。

決 議

教育の改革が叫ばれ、画一教育の打破、個性教育が強く主張され、私学の教育が見直されようとしている。だが私学の抱える問題も多く、特に財政面では危機に直面しようとしている。

第2次ベビーブームは昭和64年を境に下向し、高校進学人口は激減する。大阪府の場合、公立高校の増設と相まって、経営は極度に困難化し、学校倒産も避けられないといわれている。

母校「北陽」はいまや1700名を越すマンモス校と発展した。校舎は新築され、運動場も拡張された。ご同慶の至りです。しかし反面、教育の質的な面、例えば、進学状況、就職先の分析などでは決して満足すべき実態ではないように考えられます。

創立60周年を近く迎える「北陽」はいまこそ「智・徳・体」三位一体の建学の精神の初心に

かえるときだと痛感する次第です。

ついで、ここに2万校友を代表する代議員会の決議として次の諸点を学校当局に要望するものであります。

記

1. 法人理事者と教職員は教育の本質をふまえて、融合一体となり学校の質的向上に奮起していただきたい。
1. 私学の特色を活かし、個性のある教育を推進していただきたい。
1. 進学状況の振るわない現況にかんがみ、進学クラスの設定などにより積極的な対応策を採用していただきたい。
1. 就職先の開拓には、校友とも連携を密にし、質的向上に努めていただきたい。

以上

昭和59年6月17日

北陽高等学校

同窓会代議員

理事長 福武幸吉殿

校長 林 敏夫殿

共同石油特約店・ホンダ専売店

豊中 カクタス(株)

代表 小寺 恒雄(S18年卒)

豊中市北桜塚4丁目17-1

電話 (06)854-0089

母校クラブだより

北陽の水泳、全国へ！

水泳部監督 石坂喜一

水泳が好きな子に、その場を……そして、彼等に競技体験を通して、教育の場を……と願い毎日指導し続け八年が過ぎた。人間が人間を発見し、未知への挑戦に賭けた、人間愛と勇気ある姿を求め、スポーツのすばらしさを訴えて来た。泳げ！泳げ！そして苦しい自分と戦うのだ。練習でやらずして試合ができるか！そんな練習の中から、彼等は仲間同志の友情を深め、監督の心を知り、人間として一步一歩成長している。教育とは何か、現行の教育の場で子供に何を教育できるのか。私は、常に問いかけ、せめて放課後残って頑張っている生徒達には、教室ではできない教育の場をつくろうと取組んで来た。

競技内容についてみれば、年々北陽の水泳を知って本校に入学して来る生徒が多くなってお

り、レベルも高くなって来た。従って、個人はチームの力によって養われ、先生に教えを受け、練習や競技に臨んでいる。こうしたチームの中から、個人・リレー共に全国という場で活躍するメンバーも出始めたのである。過去四年間で、日本高校・日本室内選手権・全国ジュニア五輪など十回を数える出場を果たして来た。また、近畿ロックジュニア選抜合宿にも毎年参加できるようになったのである。今年も有望な新人を迎え、今まで以上に練習で鍛え抜き、個人だけでなく団体として全国へ出場し、今までの彼らの努力が発揮できるよう部員が一丸となって頑張っていくことであろう。

毎日の放課後の活動、それは人間教育の場でもある。何かに憧れを持ち、無我夢中になって汗を流し頑張っている生徒の姿、こうした生徒が一人でも居る限り、私は教師として彼等に力添えをしてあげたい、そして彼等の力、私の努力が今後の北陽に少しでも役に立てば幸せである。

順調に成長、陸上部

顧問 / 米川修二・加納英志

毎年、新入部員が入って来る。でも彼らのほとんどは、北陽で初めて陸上をする生徒ばかりである。中にはジョギングから始めなければ、練習について行けない者もいる。しかしその彼らが、半年後、1年後には、選手として試合に出場できるまでに成長する。

その間の練習は、血のにじむような毎日である。本校グラウンドをベースに、ある時は淀川へ、又ある時は長居へ、と練習場所を求めて移動する。夏には、瀬戸内海の島で長距離陣だけ合宿。炎天下のもと、毎日40kmを走破する。こ

の魔の合宿を乗り越えた者だけが、ランナーとして一回り大きくなるのだ。

1月13日の室内陸上では、2年生の武田が1500mに招待選手として出場。又、同月19日の浜寺駅伝では、2年生の曾山・民谷・武田、そして1年生の島田・小林のベスト・メンバーで臨む。総合タイム1時間27分7秒、153チーム中6位に食い込む。

恒例の大大阪市民マラソン（長居）には毎回出場。又、茨木市民駅伝、宝塚市民駅伝、そして兵庫私学駅伝には招待チームに名を連ねている。

高校3年間の競技生活で、生徒は自分なりに何かをつかむだろう。否、きっとつかむ。その「何か」が、彼らの人生において「何時か何処かで役に立つ」はずだ。

彼らは今日も走る。「何か」を求めて——。

昭和59年

夏の大会準優勝 !!

軟式野球部

夏の大会は軟式野球としては唯一、全国大会に通じる大会である。当然大阪大会を勝ちぬき、全国大会に出場するのが目標であったが、正直のところ3回戦の対PL学園戦までは勝ち上がろうというのが、いつわりのない気持であった。そして1回戦茨木工業、2回戦西宮屋川高校と撃破して対PL学園戦を迎えた時は、皆無欲で、全力でぶつかろうという気持だけだった。しかし1回2回と攻防を重ねるうち『PLの動きが重い。ひょっとすると』という気持が皆におこりはじめ、ついに2対0でみごとPL学園をも倒してしまった。こうして一気に波にのった我

がチームは、4回戦の対大商戦を5対0で勝ち上がり、準決勝の対城東工業戦を迎えた。城東工業は、八尾高校と並んで今大会の東西の横綱と目されていたが、勢いのついた我がチームもガッブリ組んで譲らなかった。結果は何と延長22回、ついにこれを降して決勝進出となった。決勝戦ではさすがに前日の死闘の疲れも残り、八尾高校に敗退したが、本当によく頑張ったと言える。苦しい練習に耐えチームワークを鍛えれば全国大会も夢ではない。これが今大会で得た私達の教訓である。

(佐野部長談)

第63回全国高校サッカー選手権 大会に堂々出場

~昭和60年1月2日より始まった全国大会に大阪代表として出場~

試合巧者の帝京が、1、2年生主体で健闘した北陽を振り切り、ベスト4へと駒を進めた。立ち上がりは走力とキック力を生かした北陽が優勢だったが、先取点を奪ったのは帝京だった。29分、CKのチャンスから室崎のシュートがはじかれたところを好フォローした古杉が押し込んで先制。後半も一進一退が続いたが、31分帝京は再びCKから周一室崎の得点でダメ押した。帝京の勝負どころでの強さが目立ったものの、北陽も五分の展開を見せ、とくに前半FKから決めた得点がオフサイドになってしまったのが惜しまれた。



1回戦		千葉県営	
大阪	北陽	2(2-0)	0八千代松鷺
			千葉

3回戦		大宮	
大阪	北陽	2(2-0)	0大社
			島根

2回戦		千葉県営	
大阪	北陽	0(0-0)	0広島工
		PK4-3	広島

準々決勝		千葉県営	
東京	帝京	2(1-0)	0北陽
			大阪

ECHO

中国の同窓 住所分る

昭和14年春の卒業生の皆さんへ

同窓会事務局より

会報創刊号（S55年）でお知らせいたしましたが、今度、三宅重一君からのお知らせで、劉徳普君の消息が判明致しましたのでお知らせいたします。

住所 中国遼寧省本溪市渕湖区

北山街14組 一鉄大樓第六入口
(本溪市は製鉄都市です)

同窓会会則

第1章 総 則

第1条（名称）本会は北陽同窓会と称する。

第2条（目的）本会は会員相互の親睦を図り母校の発展に寄与すると共に社会公共に貢献することをもって目的とする。

第3条（事業）本会は前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

1.会報及び会員名簿の発行

2.総会の開催

3.母校の発展に寄与する事業

4.その他必要な事項

第4条（本部及び支部）本会は本部を北陽高等学校同窓会並におく、支部は必要な地域又は職場に設けることができる。本部に事務局を置き本会の事務を処理する。

第2章 会 員

第5条 本会の会員は次の通りとする。

1.正会員(1)北陽商業学校、北陽工業学校、北陽中学校及び北陽高等学校の卒業生

(2)上記学校に在学した者で理事会の承認を得た者

2.特別会員、母校の現職員並びに旧職員

3.名誉会員、母校もしくは本会に特別の関係ありと認め理事会で承認を得た者

第3章 役員及び役員会

第6条 1.本会に次の役員を置く。

(1)常務会長 1名（母校の現校長）

(2)会長 1名

(3)副会長 3名以内

(4)会計 2名

(5)監事 2名

(6)事務局長 1名 事務局次長 2名

(7)理事 若干名

(8)代議員 若干名

(9)顧問、相談役 若干名

2.役員の任期は3年とする。

但し再任を妨げない。

センバツに 友情応援… 吹奏楽部の美挙

北陽高等学校吹奏楽部は、3月29日（金曜日）選抜高等学校野球大会高知県から出場の伊野商業高等学校にプラスバンドがないので友情応援に甲子園へ参加しました。当日はPL出場の後だけに満員の中で、顧問手嶋先生指導の下立派な演奏を行い、勝利にみちびきました。そして伊野商の校長より感謝の言葉をいただきました。

なお参考までに前年に引きつづいて本年も関西アンサンブルコンテスト大阪府大会において金管七重奏で銀賞を獲得しました。

今後の飛躍を期待いたします。

第7条 1.会長は代議員に於いて選出される。

2.その他の役員は会長これを委嘱する。

第8条（任務）1.会長は会務を統括する。但し緊急必要案件が生じ代議員会を召集するいとまなき時は理事会の議を経て会長これを先決する事ができる。

2.副会長は会長を補佐しその代理を務める。

3.会計は会の財務を処理する。

4.事務局長は本部事務局を組織し、会長の指示を受け、会に関する事務全般を処理する。

5.理事会は会務を執行し会の運営上別に内規を定める。

6.代議員会は次の事項を審議する。

(1)事業計画及び予算の承認

(2)事業報告及び決算の承認

7.理事会及び代議員会の議事は出席者の過半数をもって決し可否同数の場合は議長これを決する。

8.監事は会計を監査する。

第4章 会 計

第9条 本会の経費は会費寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第10条 本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日迄とする。

第11条（会費）本会の正会員は会費を分担するものとする。

第5章 総 会

第12条 総会は会長これを召集し代議員会をもってこれに代える事ができる。

第6章 支 部

第13条 本会は支部を設ける事ができる。支部長は支部を統括し本部にその会則役員名その他重要事項を報告し連絡を密にしなければならない。

第7章 会則変更

第14条 会則の変更をしようとする時は、会長は理事会の議を経て総会の承認を得るものとする。

第8章 附 則

第15条 その他定めなき事項は会長が理事会にはかり、これを決定する。

第16条 本会則は昭和54年9月22日よりこれを施行する。

<p>北陽同窓会会长 稻野治兵衛 (S 10年卒) 電話 (06)872-3131</p>	<p>日本書道美術館参与 日本教育書道連盟審査員 田中義信 (S 18年卒) 吹田市山手町 2-13-30 電話 (06)388-3164</p>
<p>各種自動車販売・整備・钣金・ 塗装・検査受各種ローン取扱 町出俊昭 (S 36年卒) 電話 (06)328-8529</p>	<p>岩木栄一 (S 28年卒) 電話 (06)386-3456</p>
<p>民間車検工場 三菱自動車販売特約店 各種自動車販売修理 株式会社 塩山自動車商会 (淡路電話局前) 専務取締役 塩山信夫 (S 26年卒) 〒533 大阪市東淀川区上新庄2丁目1番7号 電話 (06)328-2587・4134・5111</p>	<p>輸入洋酒専門 株式会社 トサ屋 牧野商店 牧野雅男 (S 13年卒) 大阪市南区阪町27番地 電話 (06)211-6967㈹</p>
<p>瀬川三郎 (S 10年卒) 〒570 大阪府守口市浜町2丁目2 電話 (06)991-2569</p>	<p>浜本辰己 (S 17年卒) 電話 (06)322-0414</p>
<p>川口重夫 (S 24年卒) 電話 (06)322-4561</p>	<p>不動産全般 西田不動産 代表者 西田秀吉 (S 4年卒)</p>

吹田市会議員 阪 本 隆 夫 <small>(S 15年卒)</small> 吹田市南高浜町14-8 電話 (06)381-0276	吹田市議會議長 杉 本 庄 七 <small>(S 25年卒)</small> 吹田市垂水町1-57-37 電話 (06)384-8016
兵庫県会議員 加 茂 勉 <small>(S 20年卒)</small> 〒666 川西市中央町11-15 電話 (0727)59-8890	山 崎 勝 己 <small>(S 18年卒)</small> 茨木市宮元町2-1 電話 (0726)22-2781
川砂、建築材料一式販売 (株)三 野 商 店 代表取締役 三 野 英 男 (S 30年卒) 吹田市南高浜町35-1 電話 (06)3880062	大阪豊中シム 代表 岡 田 博 <small>(S 32年卒)</small> 電話 (06)000-0000
お申込み・お問合せは 京 阪 交 通 社 東 朗 (S 46年卒) 電話 (06)2-7445	石材工事・造園土木 橋 本 石 材 代表 橋 本 剛 (S 55年卒) 門真市小路町7-14 電話 (06)908-3306
塗装工事請負・看板製作一式 寺 田 美 研 寺 田 賢 作 (S 42年卒) 電話 (06)381-2401	